

アテネオリンピック聖火リレーが東京都内で行われました。

「聖火をつないで、世界をひとつに “Pass the Flame, Unite the World”」

8月に開催される第28回オリンピック競技会は、108年ぶりに近代オリンピック発祥の地に戻り、ギリシャのアテネで行われます。

これを記念して、アテネ五輪組織委員会は史上初めて五大大陸を巡る聖火リレーを計画しました。6月4日にオーストラリアのシドニーを出発した聖火は、メルボルン、東京、ソウル、北京を経て、デリーやケープタウン、リオデジャネイロ、メキシコシティ、ロスアンゼルス、ニューヨーク、パリ、ロンドン、ローマ、ベルリン、モスクワなど33都市、26か国を巡り、ギリシャに戻ります。40年前に東京オリンピックを開催した東京都においても、6月6日(日)に聖火リレーが行われました。

早朝にメルボルンから羽田空港に到着した聖火は、臨海副都心の東京ビッグサイトに運ばれ、聖火トーチに灯され、第一走者である長島一茂さんに託されました。東京オリンピックにゆかりの深い駒沢オリンピック公園や、東京体育館のほか、浅草の雷門や国会議事堂、六本木や渋谷など約53キロメートルのコースを通り、136人のランナーが次々と聖火をつなぎ、最終走者の福原愛さんが都庁都民広場に到着しました。

到着式では、石原慎太郎東京都知事が歓迎のあいさつをし、竹田恆和JOC〔財〕日本オリンピック委員会〕会長がオリンピックの日本代表選手の激励を行いました。

このほかに、田中達也さん(五輪サッカー代表選手)や岩崎恭子さん(五輪水泳金メダリスト)、村主章枝さん(冬季五輪フィギュアスケート代表選手)、橋幸夫さんが選ばれたほか、東京都が公募した14歳から79歳の36人の人々もランナーに選ばれました。

オリンピックは平和と友情の輪を広げるスポーツの祭典です。日本代表選手を応援しましょう。



目黒区五本木付近を走る都立大泉高等学校の渡辺圭介さん

子どもたちが安心して活動できる場を～地域子ども教室推進事業

子どもたちに安全・安心に活動できる場を整備するために、「地域子ども教室推進事業」を平成16年度から18年度まで緊急3か年計画として、国が実施します。

事業概要

- 学校の校庭や教室等を子どもの居場所(活動拠点)として開放
- 放課後や週末などの一定時間、子どもたち(小中学生)がスポーツや文化活動などの様々な体験活動を実施

活動例

昔ながらの遊び、文化活動、スポーツ、パソコン、ものづくり活動、料理、音楽など

事業の特徴

行政(区市町村教育委員会など)、地域社会・企業、家庭、学校が連携し、一体となって取り組みます。

- 地域の人材・組織の力を結集

高齢者、退職教員、大学生、民生委員、保護司、PTA、社会教育団体関係者、スポーツクラブ指導員など地域の人材を結集し、ボランティアとして協力いただきます。また、公民館、図書館、博物館、青少年教育施設、児童館、商店街、警察など関係機関と連携・協力します。

- 企業の地域貢献の推進

人材の派遣、資金面の支援、企業資源の提供などを推進するとともに、家庭教育や地域貢献のための休暇取得などを促進します。

都内での取組

- 区市町村単位の実行委員会が身近な地域に居場所を設け、様々な事業を実施します。
- 27の区市町で取り組まれる予定です。(6月1日現在)
- 東京都においては運営協議会を5月に発足させ、指導者研修会やフォーラム、安全管理の手引き作成の準備などを進めています。

詳しくは...

- 区市町村の教育委員会の生涯学習・社会教育所管課にお問い合わせください。
- 文部科学省「子どもの居場所づくり」ホームページで様々な情報が提供されています。

<http://www.ibasyo.com>